

# 2021年度（第18期）事業計画

## 説明資料



東京地下鉄株式会社

2021年3月

## ① 2021年度（第18期）事業計画

P4-11

ーポストコロナを見据えた3つのキーワード

P 4

ー『安心な空間』に関する取組み

P 5-7

ー『パーソナライズド』に関する取組み

P 8-10

ー『デジタル』に関する取組み

P11

## ② 環境に関する取組み

P13

ー長期環境目標『メトロCO<sub>2</sub>ゼロ チャレンジ 2050』設定

## ③ 働き方改革等に関する取組み

P15

ー全社的な働き方改革、健康経営の推進、ダイバーシティの推進に向けた取組み

## ④ 新規事業に関する取組み

P17

ーアクセラレータープログラムの実施、個室型ワークスペース『CocoDesk』の設置箇所拡大

## ⑤ 東京2020オリンピック・パラリンピックにおける東京メトロの取組み

P19

ーこれまでの経緯・大会期間中の対応

## ⑥ 2021年度設備投資予算

P21

ー2021年度設備投資予算

# 1. 2021年度（第18期）事業計画

---

# ポストコロナを見据えた3つのキーワード

当社では、ポストコロナにおける社会・行動変容を見据え、「選ばれる鉄道会社」となるため、『安心な空間』『パーソナライズド』『デジタル』の3つのキーワードを設定し、鉄道事業の需要創出、駅・まち一体となったゆとりある空間の整備、MaaSなどに引き続き取り組んでいます。

■ : 3つのキーワード

□ : 2021年度の取組み

～安心で、持続可能な社会へ～

(サステナビリティ重要課題(マテリアリティ))

## 「選ばれる鉄道会社」

### 安心な空間

- 自然災害対策
- ホームドアの整備
- 新型車両の導入
- 駅構内や車内の消毒・抗菌
- 混雑時間帯を避けたご利用の分散
- 視覚障がい者向けナビゲーションシステム『shikAI』の提供
- 駅・まち一体となったゆとりある空間の整備
- 個室型ワークスペース等

### パーソナライズド

- 大都市型MaaS『my! 東京MaaS』によるサービス展開
- 『東京メトロmy!アプリ』への機能追加
- メトポを活用した取組み  
(デイトタイムポイントの新設、休日メトロ放題のトライアル)
- 東京の都市内観光『CityTourism』需要を創出する取組み

### デジタル

- 列車混雑計測システムの活用
- 車両情報監視・分析システム(TIMA)の活用等CBMIに関する取組み
- デジタルを活用した業務変革等

『安心な空間』に関する取組みとして、引き続き自然災害対策や、ホームドアの整備、新型車両の導入等により、お客様へのさらなる安心の提供を図ります。

## お客様への安心の提供に資する取組み

### ▶自然災害対策

震災対策として、災害時の早期運行再開を目的とした耐震補強工事のうち、丸ノ内線石積み擁壁、地上部の高架橋柱については補強完了しております。引き続き、トンネル中柱等についても耐震補強工事を行います。

また、大規模浸水対策として、駅出入口のほか、坑口、地上駅、変電所等への浸水対策を推進します。

### ▶ホームドアの整備

ホームから線路内への転落事故や列車との接触を防止し、お客様により安心してご利用いただくことを目的に、引き続きホームドアの設置を進めます。

また、「見守る目」の強化の取組みとして、必要な箇所・時間帯における駅社員・警備員の配置や音声案内装置の設置のほか、「声かけ・サポート」運動等を実施します。

### ▶新型車両の導入

丸ノ内線、有楽町・副都心線及び半蔵門線にお客様の快適なご利用に資する新型車両を順次導入します。

新型車両は、車両低床化によるホームとの段差解消のほか、全車両へのフリースペースを設置、LED照明等による消費電力の削減を図る等、車内の快適性、省エネルギー性の向上等を図ります。

また、プラットフォーム先端部にて実施している隙間対策と合わせ、段差・隙間の解消を進めます。

#### ■2021年度末時点

<b>M 丸ノ内線</b>	1編成導入予定 (合計33編成)
<b>Y 有楽町線</b>	10両編成 2編成導入予定 (合計6編成)
<b>F 副都心線</b>	8両編成 12編成導入予定 (新規)
<b>Z 半蔵門線</b>	4編成導入予定 (新規)

震災対策



▲対策前



▲対策後

大規模浸水対策



▲対策前



▲対策後

#### ■2021年度末時点

<b>全線</b>	83%整備完了予定
<b>H 日比谷線</b>	32%整備完了予定
<b>U 東西線</b>	48%整備完了予定
<b>Z 半蔵門線</b>	79%整備完了予定

(銀座線、丸ノ内線、千代田線、有楽町線、南北線及び副都心線は全駅整備済)



▲日比谷線ホームドア



▲有楽町線・副都心線 (17000系)



▲半蔵門線 (18000系) イメージ

『安心な空間』に関する取組みとして、駅構内設備等の定期的な消毒や、車内換気のほか、混雑時間帯を避けたご利用の分散の取組みを推進しています。また、すべてのお客様に安心してご利用いただけるよう、視覚障がい者向けナビゲーションシステム『shikAI』のサービスを実施します。

## 新型コロナウイルス感染症の感染予防の取組み

### ▶ 駅構内設備等の定期的な消毒・窓開けによる車内換気等

駅構内設備のうちお客様が手の触れる可能性のある部分について、定期的な消毒作業を実施しているほか、窓開けによる車内換気に向けて、窓開け開閉目安ステッカーの貼付等によるご案内の強化を実施しています。  
(駅構内及び車両への抗菌・抗ウイルス施工を2020年度実施済み)



▲券売機の消毒作業イメージ

▲窓開け目安お知らせステッカー

### ▶ 混雑時間帯を避けたご利用の分散

混雑時間帯を避けたご利用の分散に向け、メトポ※を活用した取組みを推進しています。なお、2021年度中にデイトタイムポイントの新設を予定しています。(詳細はP10)

このほか、『東京メトロmy!アプリ』での混雑状況の提供を予定しています。(詳細はP9)

メトロに乗って、ポイント貯めよう。



▲メトポロゴマーク

## 視覚障がい者向けナビゲーションシステム『shikAI』

駅構内の点字ブロック上またはその付近にQRコードを設置し、『shikAI』アプリでそのQRコードを読み取ることにより、現在地から目的地までの駅構内の移動ルートを導き出し、音声で進む方向や距離を伝えることで目的地までご案内します。  
(2021年4月までに9駅設置予定)



▲shikAI利用イメージ

※iPhoneはApple Inc.の登録商標です。

メイン・ナビゲーションメニュー



▲アプリ画面イメージ 6

『安心な空間』に関する取組みとして、ゆとりある空間の充実に向けて、駅・まち一体となったゆとりある空間の整備のほか、個室型ワークスペース『CocoDesk』の更なる展開や、銀座駅構内を活用した『ふるさとPRイベント』のサポートを実施しています。

## 駅・まち一体となったゆとりある空間の整備及び駅構内の活用

### ▶駅・まち一体となったゆとりある空間の整備

日比谷線虎ノ門ヒルズ駅整備のほか、ターミナル駅として渋谷駅に続き、小田急電鉄株式会社と連携し、新宿駅西口地区において、駅とまちの連携を強化する重層的な歩行者ネットワークやにぎわいと交流を生み出す滞留空間の整備、災害時の帰宅困難者支援等による防災機能の強化、最新技術の導入等による環境負荷の低減に取り組みます。今後も、駅・まち一体となったゆとりある空間を整備していきます。



▲日比谷線虎ノ門ヒルズ駅（※完成イメージ）

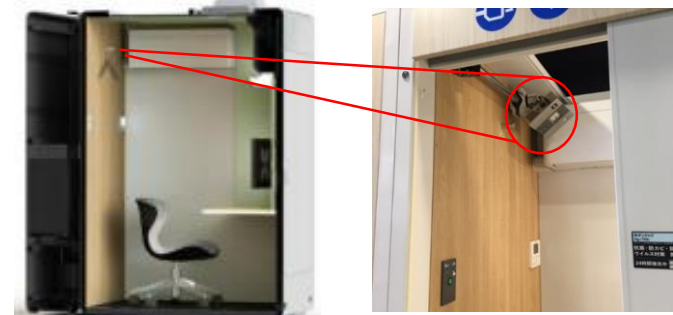
### ▶駅構内の活用

#### ○個室型ワークスペース『CocoDesk』の拡大

富士ゼロックス株式会社と共創し、2020年2月から提供を開始した個室型ワークスペース『CocoDesk』について、改札内を含む東京メトロ駅構内への設置を順次拡大し、2021年度中に37台の設置を目指します。

（2021年度末時点目標設置台数 80台）

なお、新型コロナウイルス感染症対策として、全ブースへの抗菌コーティング、自動換気、利用前後15分間の予約ブロック、及び紫外線照射装置のブース内順次設置（紫外線照射は営業時間外に実施）を実施しています。



▲CocoDesk外観及び紫外線照射装置

#### ○『ふるさとPRイベント』開催のサポート

「地方・東京の交流人口の増加による双方の持続的な発展」に貢献するとともに、「2020年10月にリニューアルした銀座駅の新たな魅力を地方自治体と共創」していくことを目的として、銀座駅構内（B2出入口付近）で地方自治体を実施する『ふるさとPRイベント（※）』を年間を通してサポートしていきます。

日本全国のさまざまな魅力を発信することが「地方の活性化」に寄与するとともに「地方創生」につながるものと考えています。

東京と地方をつなぐこと、またリニューアルした銀座駅に地域・地方の情報発信という新たな魅力を加え、一層魅力的な駅空間をお客様に提供していきます。

※ふるさとPRイベントとは・・・観光PR、物産展、Iターン・UターンのPRなど



▲銀座駅B2出入口付近

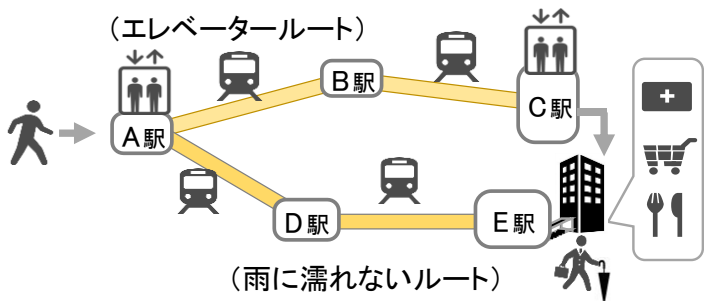
▲実施の様子

大都市型MaaS『my! 東京MaaS』により、多様なモビリティやサービスとの連携を通じて「更なるネットワークの連続性」を追求し、「パーソナライズドした移動経路・付帯サービス」や、「リアルタイムな運行情報」を新たに提供し、お客様一人ひとりのニーズにこたえ、これまで以上に移動を快適に楽しく、さらには移動需要の創出を目指します。

## ■東京メトロが考える「大都市型MaaS」

### パーソナライズド検索

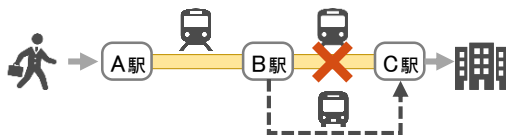
- エレベータールート検索や、雨に濡れないルート検索などで、東京をもっと「移動しやすく」していきます。



※今後「密を避けるルート」等にも対応予定

### リアルタイム検索

- リアルタイムな運行情報・列車の走行位置確認に加え、運転見合せを回避する経路も提案します。



## ■東京メトロmy!アプリ



### 様々なモビリティとの連携



リアルタイム  
運行情報の提供



東京メトロmy!  
アプリ



パーソナライズド

my! 東京MaaS

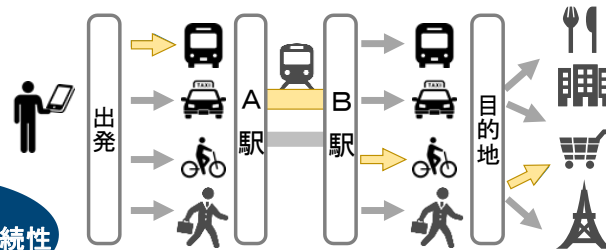
一人ひとりの  
移動・ビジネス・生活を支え、  
都市の安心と活力を高める

リアルタイム

更なる  
ネットワークの連続性  
の追求

### 更なるネットワークの連続性の追求

- 多様なモビリティや、駅周辺・沿線地域の目的地サービスと連携し、首都圏の中心にあるネットワークを更に磨き込みます。



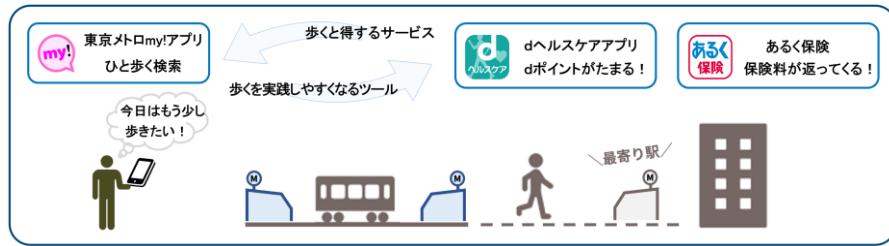


『パーソナライズド』に関する大都市型MaaSの取組みとして、『東京メトロmy!アプリ』において各種機能を追加することにより、お客様の健康増進に寄与するとともに、さらなる利便性の向上を図ります。

## 東京メトロmy!アプリへの機能追加

### ▶ 『ひと駅あるく検索』機能の提供 (MaaS×健康応援)

『東京メトロmy!アプリ』においてdヘルスケア及びあるく保険アプリと連携した『ひと駅あるく検索』機能の提供を開始する等、多様なパートナーとの連携拡大を模索しながら「MaaS×健康応援」の取組みを推進します。



▲「MaaS×健康応援」連携イメージ (2020年12月ニュースリリースから抜粋)

### ▶ 『混雑を避けるルート』機能の提供

『東京メトロmy!アプリ』での経路検索時に、東京メトロ全9路線の混雑状況(※1)及び他鉄道路線の混雑状況(※2)をもとに、「混雑を避けるルート」を提案する機能を提供開始しました。(2021年3月24日提供開始)

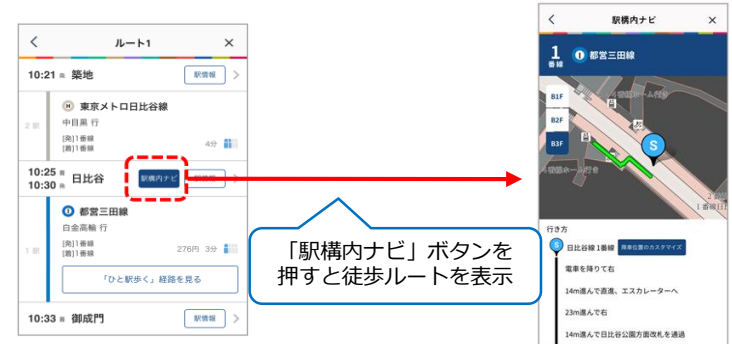
※1 当社提供 ※2 ナビタイムジャパン提供



▲アプリ画面イメージ

### ▶ 『駅構内ナビゲーション』機能の提供

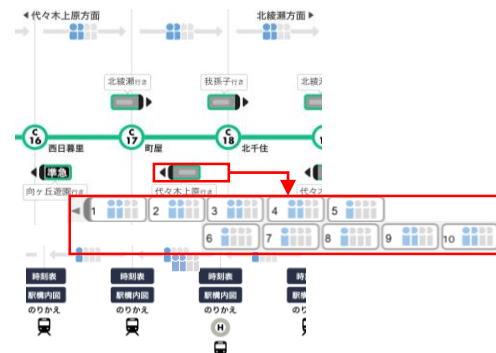
『東京メトロmy!アプリ』のさらなる利便性向上や、お客様の移動のしやすさを追求するため、東京都交通局と連携し、駅構内ナビゲーション機能を提供を開始しました。(2021年3月24日提供開始)



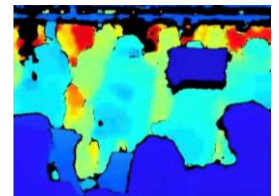
▲アプリ画面イメージ

### ▶ 『混雑の見える化』に向けた取組み

上野グリーンソリューションズ株式会社と共創して開発した列車混雑計測システムを活用し、駅停車中の車両の側面をデプスカメラで撮影することにより、当該列車の混雑情報を推定する方法を導入します。これにより、各号車のリアルタイムデータを「東京メトロmy!アプリ」内でご確認ください。 (2021年度上半期から順次提供予定)



▲アプリ画面イメージ



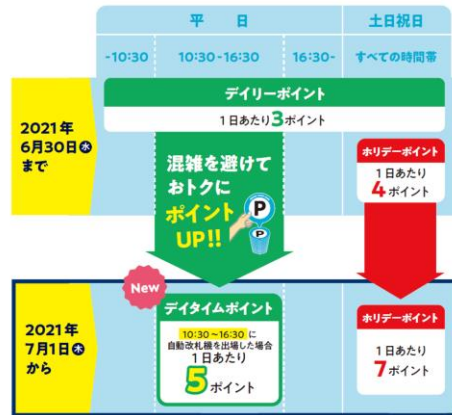
▲デプスカメラ  
撮影画像イメージ

『パーソナライズド』に関する取組みとして、『デイトタイムポイント』の新設や、『休日メトロ放題』のトライアル等メトポを活用した取組みを実施するほか、東京の都市内観光を『City Tourism』と名付け、『City Tourism』需要を創出する取組みの一環として、都内観光施設入場券等と『Tokyo Subway Ticket』のセット発売を実施します。

## メトポを活用した取組み

### ▶ 『デイトタイムポイント』の新設

混雑時間帯を避けた平日日中のご利用がお得になる取組みとして、2021年7月に、平日10:30～16:30までのご利用で1日あたり5ポイントを進呈する『デイトタイムポイント』を新設します。



▲デイトタイムポイントの概要図

### ▶ 『休日メトロ放題』のトライアル

比較的空いている土日・祝日において、お得にお出かけしていただけるよう、登録料月額2,000円で1か月の土日・祝日が実質乗り放題になる『休日メトロ放題』のトライアルを2021年秋に実施します。



▲休日メトロ放題の概要図

## 東京の都市内観光『City Tourism』需要を創出する取組み



### ▶ 都内観光施設入場券等とセットでの発売開始

東京の都市内観光『City Tourism』需要を創出する取組みの一環として、『Tokyo Subway Ticket』と東京スカイツリー®展望台入場券のセット発売（オンライン）を2021年度に開始するとともに、連携先の拡大を図ります。



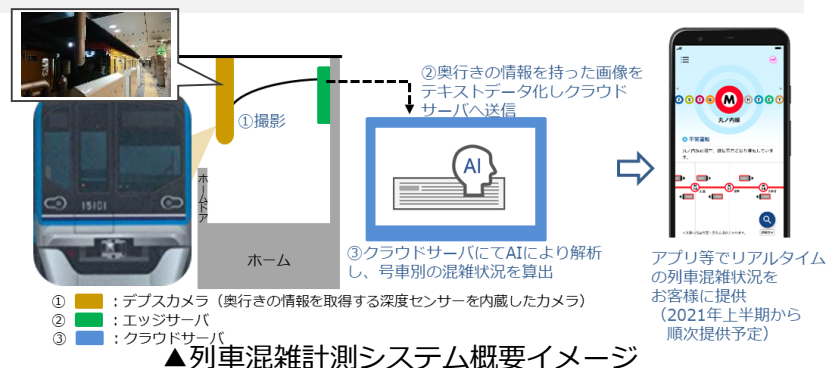
▲TokyoSubwayTicketセットイメージ

『デジタル』に関する取組みとして、各社と共創して開発した列車混雑計測システムの活用による混雑の見える化や、CBM（状態基準保全）の取組みとしての車両情報監視・分析システム（TIMA）の活用等、デジタルを活用した業務変革等に取り組んでいます。

## 新技術に関する取組み

### ▶ 列車混雑計測システム

上野グリーンソリューションズ株式会社と共創し開発した、列車の駅出発時に、車両側面をデプスカメラで撮影し、列車混雑状況を人工知能（AI）に機械学習させることにより列車ごとの混雑状況をリアルタイムで計測する新技術です。これにより、列車混雑状況をリアルタイムにご提供することを目指しています。（2021年度上半期から順次提供予定）

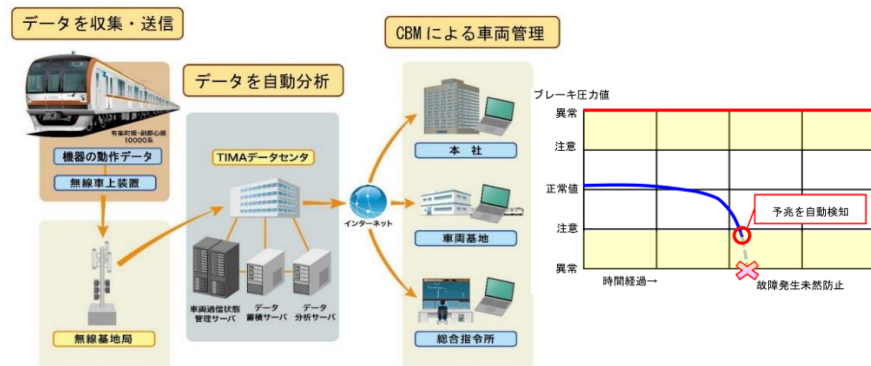


### ▶ 車両情報監視・分析システム（TIMA）の活用

更なる安全安定運行の実現や、車両機器状態を基準とした状態基準保全（CBM）による車両検査の深度化・効率化の実現のため、三菱電機株式会社と共創し開発したTIMA※の新機能である「故障予兆検知システム」をブレーキ装置及び電動空気圧縮機（コンプレッサー）を対象に有楽町・副都心線10000系車両及び17000系車両へ2020年度から導入しています。

今後は、引き続き他車系への導入を進めるとともに、制御装置や電源装置、保安装置などの様々な装置へ対象を拡大していきます。

※TIMA: Train Information Monitoring and Analysis system



### ▶ デジタルを活用した業務変革等

デジタルによる業務変革を目的として、CBMによる安全・安定輸送の維持・向上及びメンテナンスの効率化をはじめ、RPA（ロボットによる業務自動化）や検査業務等へのタブレット端末活用による作業の削減、VR等を用いた研修等を推進するほか、社員のデジタルリテラシー向上を図るため、全社員へのデジタル教育等を実施します。

このほか、将来的な労働人口の減少を見据え、安全・安定輸送の確保を前提として、有楽町線においてATO※を活用したワンマン運転の実施に向けた検討を進めます。

※ATO: Automatic Train Operation（自動列車運転装置）

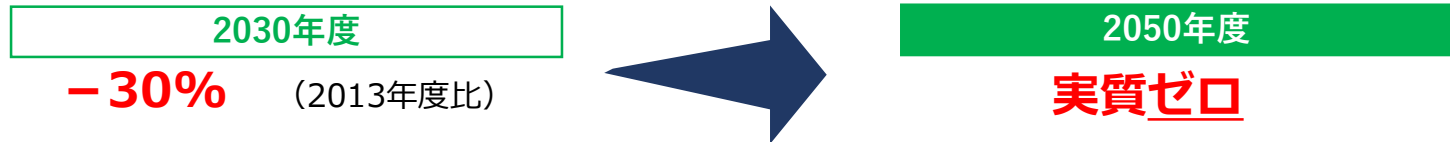


## 2. 環境に関する取組み

---

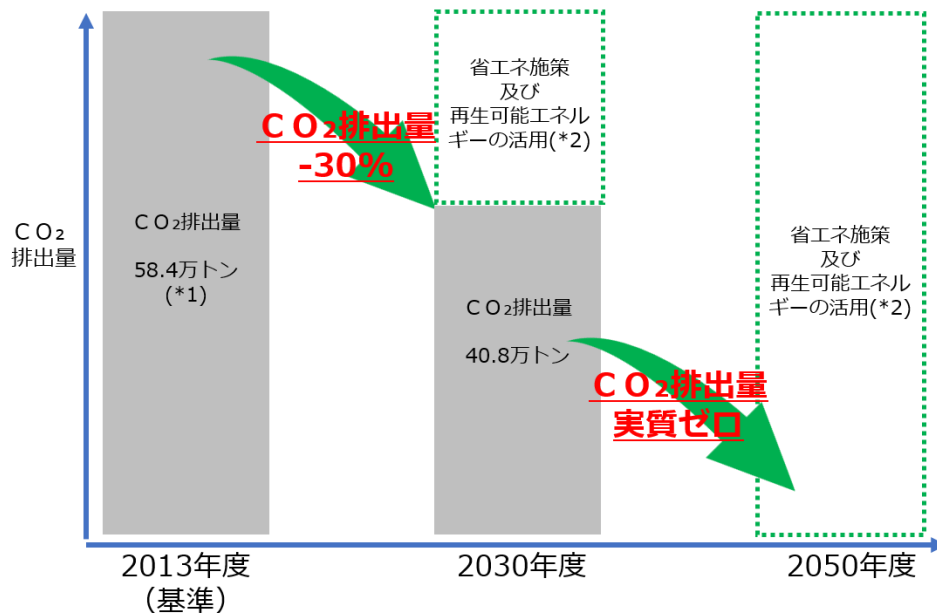
東京メトログループは、2020年9月に特定したサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）のうち、「気候変動の緩和」を目的として、グループ全事業が排出するCO<sub>2</sub>量を2050年度時点で実質ゼロを目指す、「東京メトログループ長期環境目標『メトロCO<sub>2</sub>ゼロ チャレンジ 2050』」を新たに設定します。

## 長期環境目標：『メトロCO<sub>2</sub>ゼロ チャレンジ 2050』 設定



実現に向け、全ての事業における先端技術の採用や改善活動等の創意工夫により、再生可能エネルギーの活用や更なる事業の省エネ化を強く推進し、東京メトログループ役員・社員が一丸となり、「安心で、持続可能な社会」の実現に貢献します。

【東京メトログループCO<sub>2</sub>排出量削減イメージ】



### 省エネ施策



全ての事業における先端技術の採用による省エネ推進

▲丸ノ内線新型車両2000系

### 再生可能エネルギーの活用 (\*2)



太陽光等再生可能エネルギーの活用 (\*2)

▲南行徳駅太陽光発電システム

(\*1) CO<sub>2</sub>排出係数は0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWh(2013年度代替値)を採用。

(\*2) 再エネ由来電力利用の他、水素等の代替エネルギーの活用等を検討。

### **3. 働き方改革等に関する取組み**

---

当社社員が生き生きと働き続けることができるよう、全社的な働き方改革に取り組むほか、健康経営やダイバーシティの推進に向けた取組みを実施します。

## ▶全社的な働き方改革

テレワークの推進、1on1ミーティングの導入やTPOに合わせた服装の柔軟化（「装い改革」）に加え、ライフイベントに合わせた働きやすさ向上施策（不妊治療・男性社員育休取得の支援、先進医療補償制度等）により、社員が働きがいを持ち、安心して働き続けられる環境整備に努めています。

### 装い改革

本社・現業社員の全役職員を対象に、勤務中や通勤時のドレスコードの見直しを実施（2020年11月より実施）

### 不妊治療支援

- ・経済負担を軽減するため、無給の休職期間中に支援金を支給（2021年3月より実施）
- ・妊活コンサルジュ（妊活等にかかる専門家アドバイスを無料で受けられるサービス）を導入（2020年4月より実施）

### 1on1 ミーティング

上司と部下のコミュニケーション強化や、チャレンジ推進を目的として、定期的に1対1で対話を行うマネジメント手法を導入（2020年10月より実施）

### 先進医療補償 制度

先進的な医療を受けた社員に治療費を補助する制度を導入（2020年4月より実施）

## ▶健康経営の推進

ウォーキングイベント「歩いてドン！」や「バーチャル駅伝」、禁煙デー（本社社屋）等の実施により、社員及びその家族が健康的に生き生きと生活できるよう、様々な取組みを実施しています。

### 運動に関する 取組み

- ・ウォーキングイベント『歩いてドン！』の実施（2020年度より実施）
- ・駅伝大会『バーチャル駅伝』の開催（2021年1月開催）

### 禁煙に関する 取組み

- ・本社社屋を対象とした禁煙デーの設定（2020年11月より実施）
- ・禁煙支援窓口の設置や世界禁煙デー（5/31）等に合わせたニコチンパッチの提供

## ▶ダイバーシティの推進に向けた取組み

多様な人材の活躍の推進を目的として、女性のキャリア形成をサポートするキャリアデザイン研修や、定期的な面談やサポートラインの設置を通じた障がい者も働きやすい環境の整備のほか、LGBT等に関する各種研修による啓発活動を実施しています。



WORK×LIFE SMILE ACTION

～社員一人ひとりの最大活躍のために～



▲装い改革イメージ



▲スポーツエールカンパニー  
認定ロゴマーク



▲健康優良法人ロゴマーク



▲くるみん認定ロゴマーク

## 4. 新規事業に関する取組み

---



新規事業に関する取組みとして、東京メトログループの保有する経営資源と社外のアイデア・技術を組み合わせ、共創を通じた新規事業創出や鉄道事業の進化を目的としたアクセラレータープログラムを実施するほか、個室型ワークスペース『CocoDesk』の設置箇所拡大を推進します。

## アクセラレータープログラムの実施

### ▶Tokyo Metro ACCELERATOR 2020の実施

『Tokyo Metro ACCELERATOR 2020』の最終審査を通過したスタートアップ企業との協業を検討する等、幅広い外部連携等を通じ、新たな事業領域に積極的に挑戦していきます。



▲Tokyo Metro ACCELERATOR 2020

### ▶eスポーツジム事業への進出

eスポーツ技術を楽しみながら学んでいただくeスポーツジム事業の展開に向け、ゲシピ株式会社（Tokyo Metro ACCELERATOR 2019採択企業）との業務提携を開始しました。また、プロeスポーツチーム等による指導について、2021年3月からオンラインでの提供を開始し、今後は沿線のジム店舗でも提供していきます。

国際都市東京から新たなeスポーツカルチャーを発信し、eスポーツファンの裾野を広げ、いつでも誰でもeスポーツに取り組むことができるサービスの開発に挑戦していきます。



▲eスポーツジム店舗イメージ

## 個室型ワークスペース『CocoDesk』の設置箇所拡大

富士ゼロックス株式会社と共創し、2020年2月から提供を開始した個室型ワークスペース『CocoDesk』について、改札内を含む東京メトロ駅構内への設置を順次拡大し、2021年度中に37台の設置を目指します。

（2021年度末時点目標設置台数 80台）



▲CocoDesk外観

## 5.東京2020オリンピック・パラリンピックにおける東京メトロの取組み

# 東京2020オリンピック・パラリンピック における東京メトロの取組み

～東京が一番かがやく夏に、私たちがご案内します。～



東京メトロはこれまで取り組んできた各種施策を磨き込み、全社一丸となり東京2020オリンピック・パラリンピックの成功に向けて準備を進めています。また、大会期間中は、既に実施している新型コロナウイルス感染症の感染対策も踏まえ万全な対策を講じ、安心してご利用いただける環境をつくります。



©Tokyo2020

## ■ 東京2020大会に向けたこれまでの経緯

2013年9月	「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催地が東京に決定
2013年10月	東京2020大会の開催決定を受け、社長を推進本部長とする「東京2020オリンピック・パラリンピック対策推進本部」を設置
2013年12月	推進本部で策定した基本方針に基づき「安心・サービス等の総点検」を開始
2014年9月	安全・サービス等の総点検の結果を踏まえ「東京メトロ“魅力発信”プロジェクト」を策定
2016年6月	東京2020大会のオフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)に決定
2018年4月	東京2020大会への推進体制を強化することを目的に「オリンピック・パラリンピック推進室」を設置
2019年3月	東京2020オリンピック大会期間中の輸送サービスの概略を公表
2020年3月	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、東京2020大会の1年の延期が決定

## ■ 大会期間中の対応

お客様のご利用状況を踏まえた輸送対応



駅社員・警備員等の増配置

東京2020大会ルックや東京2020スポーツピクトグラムを活用した案内サインの設置

**TOKYO 2020**  
(東京2020大会ルック)



(東京2020スポーツピクトグラム)

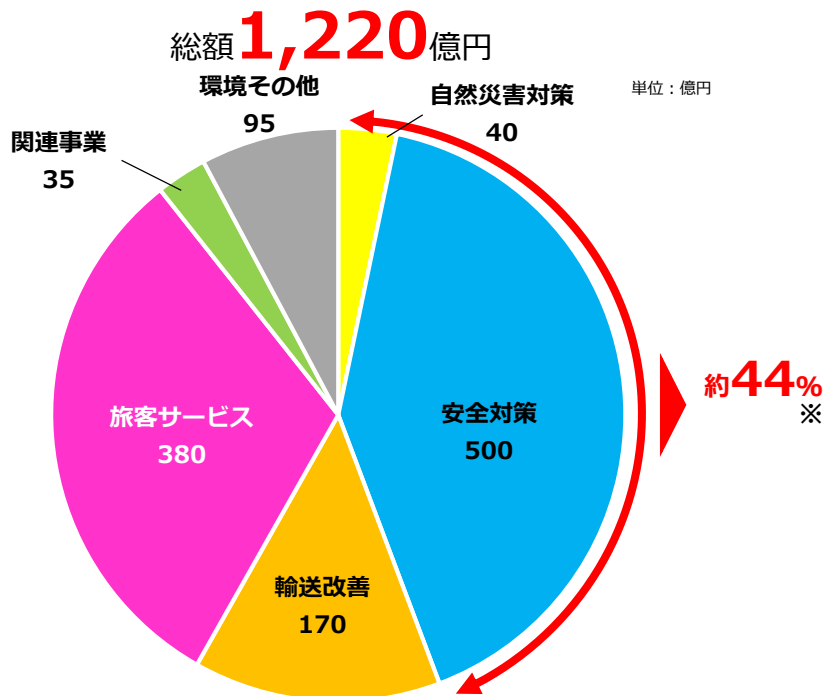
●東京メトロは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)です。

## 6. 2021年度設備投資予算

---

# 2021年度設備投資予算

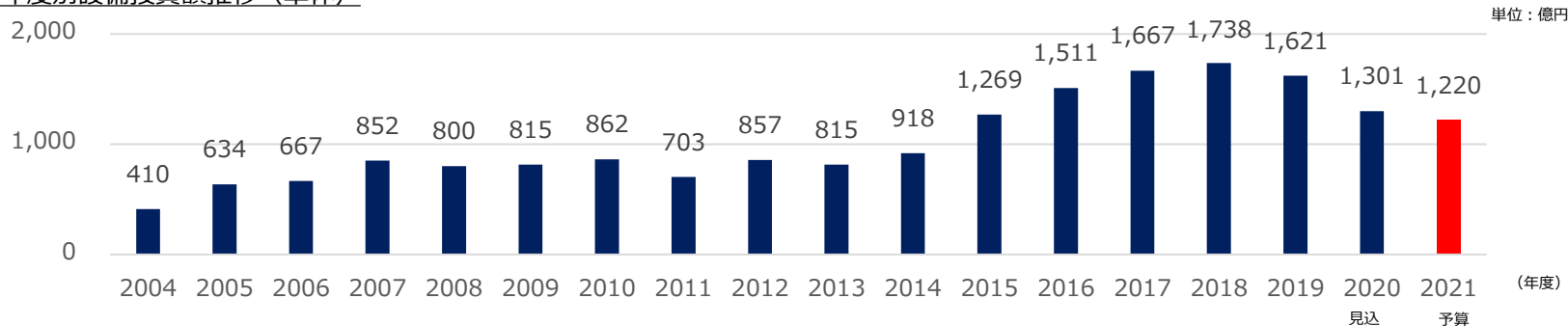
2021年度（単体）は、1,220億円の設備投資を計画しています。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、当社の経営環境は大きく変化しており、今後の経営の見通しが不透明な状況であることから、コロナ後の輸送サービスを考慮しつつ、安全の確保を前提に設備投資全般の抜本的な見直しを行う一方、『安心な空間』『パーソナライズド』『デジタル』の3つのキーワードに加えて、増益、MaaS、環境、研究開発などの施策に重点的に取り組みます。



項目	2021年度予算	主な案件
<b>自然災害対策</b>	<b>40</b>	震災対策、大規模浸水対策
<b>安全対策</b>	<b>500</b>	
保安度向上	220	C B T C、列車無線デジタル空間波無線化など
車両更新	210	有楽町線・副都心線、半蔵門線、丸ノ内線
ホームドア整備	40	日比谷線、東西線など
その他	30	CS-ATC更新など
<b>輸送改善</b>	<b>170</b>	東西線（南砂町駅改良等）、南北線8両編成化など
<b>旅客サービス</b>	<b>380</b>	
バリアフリー整備	110	エレベーター、エスカレーター整備など
駅空間整備	170	銀座線渋谷駅移設工事など
その他	100	駅冷房増設・更新、ICカード機能拡大など
<b>関連事業</b>	<b>35</b>	新規開発案件など
<b>環境その他</b>	<b>95</b>	L E D照明改良、社内システム改修など
<b>合計</b>	<b>1,220</b>	

※自然災害対策及び安全対策の総額に占める割合

【参考】年度別設備投資額推移（単体）





※注意事項  
ここに掲載されている情報のうち、過去の実績以外のものは将来の見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。  
したがって、実際の業績はこれらと異なる結果になる場合がありますことをご了承ください。